



2009/03/05

南太平洋からの便り

Vol. 12

JICAのシニア海外ボランティアとしてトンガに赴任した安藤正治が、トンガの様子などをレポートします。発行間隔は未定ですがご了承ください。

ハアパイとババウに行ってきた。

島の国トンガ

トンガ王国は170の島からなっていますが、大きく分けると4つのグループに別れます。首都ヌクアロファのあるトンガタブ島を中心としたトンガタブグループ。トンガタブから北へ160キロ離れたハアパイグループ。世界中のヨットマンによく知られたババウグループ。そして一番北にあって交通も不便なニウアスグループです。

2月末にテレビジョントンガの仕事でハアパイとババウに行ってきました。もちろん初めての訪問です。トンガタブのファアモツ空港から10人乗りのパイパーの双発プロペラ機で40分飛ぶと、ハアパイグループのリフカ島に着きます。ハアパイグループは60の小さな島からなり、標高1000メートルもある火山のある島もあります。リフカ島はハアパイの中ではもっとも人口の多いパンガイ村のある、白砂と海が美しい細長い島です。街の中を南北に幹線道路が走っていて、なんと飛行場の滑走路を道路が横断しています。飛行機の離着陸の時だけ通行止めになり、車が列を作って待っている姿が飛行機の中からも見られます。道路は隣のフォア島と繋がっていて、海の上

この道路も日本の援助で造られたそうです。フォア島には延々と続く白砂が美しいサンディービーチ(写真)があり、唯一のリゾートホテルがあります。パンガイの街は小さく、島の人々は皆知り合いです。旅行者にもあちこちから声がかかってきます。宿も店も少なく(レストランは一軒)、道路は親子のブタであふれています。家々にはまだ馬が飼われているのが印象的でした。何も無い海と砂が美しい、時間がゆっくりと流れる島でした。



タラウ山からネイアフの街を望む(トンガ王国/ババウ島)

ハアパイに2泊したあと飛行機でババウ島へ、25分の旅です。ババウは入り組んだ入り江と複雑な海岸線を持つ美しい島です。入り江が天然の港を作り、サイクロンの時のヨットの避難港にもなっていて、美しい風景とともに世界中のヨットマンに知られています。冬のシーズンには毎週金曜日にヨ

ットレースが開かれ一般の人も便乗できるそうです。そして冬のシーズンと言えばホエールウォッチングでも有名で、ザトウクジラが近くの海域で子育てをするのが間近に見られます。クジラと一緒に泳げることから世界中から人が集まります。ヨットマンが集まる街だけあってどこことなく洗練されていて、カフェやレストランもシーフードなどのおいしい店が集まっています。(次ページにつづく)

お問い合わせ

Masaharu Ando

C/O JICA TONGA OFFICE
P.O.Box 413, Nuku'alpa,
Kingdam of TONGA

E-mail:masa.ando@japan.email.ne.jp
http://www.ando-japan.com



黄色いコスモス

[ネイアの町中は] 坂が多く、白人が多い

ババウの中心はネイアの街です。ヨットハーバーがあり、港には沢山のヨットが停泊しています。世界中から人がやってくるだけあって、ここを気に入って住み着くパラソング(白人)も多く、パラソング経営の店やリゾートも沢山あります。「世界中から人が集まってもトンガ人に、お金が落ちない」という声も聞かれます。もともとトンガ人はお金や物があつたら、みんなで使ってしまう、江戸っ子みたいに人たちが多くお金儲けには無関心なのかもしれません。もちろんトンガ人の中にもいろいろな商売をして、経営を切りもりしている人

も沢山います。多くはやはり海外へ留学したりして学んできた人が多いようです。


ババウの特徴はトンガタブやリフカと違って、小高い丘があつて坂道も多いことです。トンガに来て初めて坂に出会った感じでした。標高百数十メートルのタラウ山は街から頂上まで徒歩でわずか40分で、頂上からは美しい海岸線が真下に見下ろせます。その美しさは、住み着く白人の気持ちもわかるというものです。またババウは道路の舗装がきれいで首都のヌクアロファ以上でした。これはEUの援助だそうで、学校なども他の島よりEU



の援助が多いような気がしました。気温はトンガタブより2度くらい高いようで、やはり暑かったです。小高い丘に建つ真っ白なカトリック教会(写真)も名所の一つで夕方レストランに行く途中に通るかかると、美しい賛美歌が聞こえてきました。今回の仕事はハアパイとババウのJICAボランティアのテレビ取材でしたが、つぎは是非、ダイビングとホエールウォッチングをしに休暇で来たいものです。

島の動物

ハアパイの空港に着陸すると飛行機の中から、グンカンドリらしき鳥が滑走路の上空を悠然と飛んでいるのが見えました。近くに白い鳥も。ネットアイチョウウカアジサシかしかとは見極められず、カメラも残念ながら持っていませんでした。グンカンドリは翼を広げると2メートルにもなる大きな

 熱帯の海の鳥です。以前、住んでいるトンガタブでも街の近くでコグンカンドリの若鳥を見かけました。(写真)シギやチドリもこの時期あちこちで見かけます。そしてハアパイで多かったのは前にも書いたブタと馬。子豚は結婚式などのお祝いの贈り物として、丸焼きが食卓に並ぶとあつてどの島でも飼っています。馬は昔は主な交通手段でした。ハアパイでは乗っている人を見かけませんでしたが、多くの家の庭につながっていました。ババウで

は遠くの村へ行った帰り、馬に乗っている人を見かけました。小さな島ではまだまだ馬が乗り物や荷物を運ぶ手段になっているということです。犬はどの島にもいました。もちろん飼い犬が放し飼いになっているのですが、ハアパイもババウも、首都ヌクアロファの犬に比べるとおとなしいような気がしました。吠えまくっている犬もいないし、ジョギング



コグンカンドリ若鳥(ヌクアロファ)、ブタと馬(ハアパイ)、馬に乗る人(ババウ)

も少し余裕を持って走れました。どうやら犬も首都に比べておっとりしているようです。



Newsletter from Tonga

Produced by Masaharu Ando



ご意見などあれば安藤までメールをください。
ホームページのブログ「FieldNote」でもトンガ情報を日々更新中です。
<http://www.ando-japan.com>